

# 仙台沿岸エリア

仙台市・塩竈市・名取市・多賀城市・岩沼市  
亘理町・山元町・松島町・七ヶ浜町・利府町



1年後の一番町商店街(仙台市)

仙台エリアは宮城県のほぼ中央に位置し、沿岸部の市町は、仙台市、塩竈市、名取市、多賀城市、岩沼市、亘理町、山元町、松島町、七ヶ浜町、利府町の5市5町で構成されています。死者・行方不明者数は3,000人を超え、160,000棟以上の住家が全半壊するなどの深刻な被害を受けました。松島周辺では地形などにより壊滅的な被害は免れ、主要産業の再開や県内で一番早い仮設住宅への入居、仮設商店街の完成など、他の沿岸地域に比べて一足早い復旧復興のスタートを切りました。仙台空港や仙台塩釜港、道路、鉄道などの交通・物流インフラもほとんどが回復し、東北六魂祭や仙台七夕まつり、光のページェントなど大きなイベントも行われ、多くの観光客に中心部の復興の姿をご覧いただきました。反面、他の沿岸地域同様、大勢の応急仮設住宅で暮らす被災者がいるほか、550万トに及ぶ膨大な震災廃棄物を処理しなければならず、県内での処理に向け最大限努力しているところですが、全国の支援を必要としている状況です。



世界の子どもたちから贈られたカレンダーを手に笑顔の園児たち



名取市関上のがれきの山

## 仙台沿岸エリアの被害状況

(平成24年3月11日現在)

	地域合計	県内合計
死者	3,133人	9,544人
行方不明者	125人	1,688人
全壊	41,026棟	84,728棟
半壊	119,345棟	147,156棟

## 応急仮設住宅入居者数

(平成24年3月2日現在)

応急仮設住宅	14,429人
民間賃貸借上住宅	37,108人
計	51,537人

※民間賃貸借上住宅の市町村ごとの件数は、当該市町村で申請受付し入居決定した件数です。申請市町村と入居希望物件の所在市町村が異なる場合があるため、市町村ごとの現在入居件数とは異なる場合があります。

## 災害廃棄物処理の進捗状況(環境省HPより)

(平成24年3月5日現在)

がれき推計量(千t)	5,500
処理・処分量計(千t)	273
処理・処分割合	5.0%

※がれき推計量は、衛星画像を用いて浸水区域を特定し、これをもとに、環境省において津波により倒壊した家屋等のがれき量を推計したものです。

復興応援ブログ「ココロプレス」からの抜粋です。http://kokoropress.blogspot.com/「ココロプレス」については16ページをご覧ください。

2011年11月10日

## 逃げてはなんねぞ

(名取市関上)

美しく健康な関上海岸の再生を目指して、名取ハマボウフウの会は全国各地の海岸で活動する市民団体と連携をしています。関上の長老の言葉「逃げてはなんねぞ」を心にしまい、代表の大橋信彦さんの活動は続きます。



2011年11月22日

## 神様から伝えられた藻塩で天命を生きる

(塩竈市新町)

「これからも今までどおり、淡々とやっていけます」とおっしゃる塩竈市港町・合同会社 顔晴れ塩竈の統括、及川さん。去年、塩竈で行われた、塩サミットの開催に尽力し、ご自身もパネラーとして参加、大盛況だったそうです。この工房では、塩竈伝来の製塩方法に基づきホンダワラ海藻を用いて製塩しています。見学にも力を入れており、大人気です。これからも、塩竈の伝統をお守りください。



塩を通じて、塩竈の歴史と伝統を伝える及川さん

2011年11月25日

## マグロは日本一、お店は東洋一

(塩釜市新浜町)

塩釜水産物仲卸市場の事務局長、茂庭秀久さん。震災からの早期復旧を果たし、現在ではお客さんもかなり戻ってきているとのこと。仲卸市場として、店舗数と種類の多さでは東洋一。三陸沖や、マグロの水揚げ全国一の金華山沖などの新鮮な食材がいっぱいです。市場で旨い魚をゲット!

☎塩釜水産物仲卸市場 022-362-5518



塩釜水産物仲卸市場

2011年12月5日

## こわいものなし!!

(仙台市長町)

県内の仮設住宅の中で最も早くホームページをスタートさせたのが「あすと長町」仮設住宅です。「どうせ出て行くのだからとは思わず、少しでも住み良いコミュニティの輪を広げ、仮設住民が団結して、住民の手による平和な仮設団地にしたい」と設立された「あすと長町仮設住宅運営委員会」が運営。会長の鈴木良一さんは「物がみんな無くなったので開き直った。なーんもコワイモノなしだね」と、明るく皆を引っ張っています。



2011年12月13日

## 松島の四季それぞれの魅力を味わって

(松島町松島)



松島観光協会専務理事 伊藤國雄さん

俳聖松尾芭蕉をも感嘆させた風光明媚な松島ですが、名産の「かき」をはじめおいしい海の幸もお忘れなく。「震災から間もなく4月27日には遊覧船が再開。観光客も50%強ほどまで回復しています。松島は四季によってまったく違う魅力をもつ町です。是非ご家族みなさんと、四季の松島を楽しんでほしいですね」と松島観光協会専務理事の伊藤國雄さん。松島のかきを食べて元気になって、松島も元気になる。素敵な循環になるといいですね。

☎(社)松島観光協会 022-354-2618

2011年12月22日

## ごっつおするぞ

(山元町山寺)



津波に負けずイチゴ栽培を復活させた渡辺正俊さん

津波で家財も位牌も農機具やイチゴ栽培のハウスもすべて流されてしまった渡辺正俊さんですが、震災に負けず、ボランティアの方々の協力を得て約2カ月かけてハウスを完成させました。渡辺さんはこのハウスで初めて採れるイチゴを、これまで支援してくれたすべての方々に「ごっつお」したいそうです。「後ろばかり見ていてくさそうがないし、前を向いてやっていこう」渡辺さんから、逆に励まされました。

2012年1月6日

## 七ヶ浜“憩い”の商店街

(七ヶ浜町吉田浜)

2011年12月、七ヶ浜蒲田海岸から程近い高台に仮設商店街がオープンしました。7店舗が軒を連ねるここ「七の市商店街」では、誰もが気軽に立ち寄れる語らいの場・元気の発信地となるようにと、全員が奮起しています!



七の市商店街「ホシ理容室」店長の星さん

2012年2月6日

## あなたと再開するために

(名取市美田園)

震災から11カ月経った2月4日に、関上の希望の灯、仮設商店街が出来ました。場所は美田園7丁目、仮設住宅のそばです。その名も「関上さいかい市場」、素敵な命名です。再開と再会をかけているんですね。



2012年3月3日

## 仙台空港、1年の歩み

(名取市下増田)

壊滅的な被害を受けながら、わずか6カ月という期間で復活を果たした仙台空港。今や、ターミナルビルは津波の面影を全く感じさせません。全国各地から今も応援の声が寄せられ続け、3月11日には「東北観光博×東北は負けない」と題し、復興支援ライブが開催されました。「震災による風評被害で仙台離れを感じます。仙台空港が安心して利用いただけることを、どんどんアピールしていきたい」空港ビルの職員は熱く語ってくれました。



「復旧」は終わった。次は、「復興」の番だと力を込める錦戸さん

現在の仙台空港

2011年12月2日  
**海への畏怖** (名取市閉上)



震災後初の海水浴場を閉上に作ります。吉田浩文さん

2011年12月9日  
**美しい風景とおいしいお菓子で癒されて** (松島町松島)



五大堂近くの和菓子屋、「独まん」の皆さん

2011年12月12日  
**食べる喜び、幸せをつくるスイーツ** (多賀城市町前)



「あえて頑張らずに」と、Kazunori Mulataの村田シェフ

2012年1月16日  
**震災をバネに** (仙台市太白区)

「これからこの国を引っ張っていく自分たちの世代が、震災体験を後ろ向きに考えず、逆に震災をバネに頑張らなきゃ。」41頭中39頭の馬が津波の犠牲になった乗馬クラブベルステーブルの鈴木嘉憲さん。秋保で再開です。



2012年1月19日  
**僕たちは、笑顔を決めない。【smile for birthday】** (仙台市青葉区)



県内6店舗のパティスリーが作る特製ケーキ

「どんな状況になっても、どこかに必ず君の誕生日を祝おうとしてくれている人がいる」。パティスリー「九二四四」の橋浦シェフを中心に活動する【smile for birthday】プロジェクトでは、被災地で誕生日を迎える子どもたちにバースデーケーキを届けています。「一人じゃない」温もりや愛情を1台のケーキに込めて、これまでに1,700人以上を笑顔にしてきました。誰にとっても特別な1日に、人と人とを繋ぐこの温かな輪は今も広がり続けています。詳しくは [smile for birthday](#) | 検索

2011年12月12日  
**春のような放送局** (亘理町字下小路)

「FMおおぞら」は住民の求めるのはきめ細かな情報、マスコミ情報ではカバーできません。町の片隅で話されているようなことを伝えていくことによってコミュニティが再生していくことを願っています。



2011年12月16日  
**和紙と墨** (仙台市青葉区)

NPO法人宮城歴史資料保全ネットワークは、震災後1カ月くらいから石巻、東松島、南三陸などの津波被災地に入り、個人宅の歴史資料の搬出、応急処置、保全に取り組んできました。2011年12月22日現在で、救出した資料の数は2万点を超えます。「今回の震災の経験を生かし、今後の災害に備え、復興に生かしていきたいです。昔の資料の中には現在に生きる情報として活用できるものもありますから」と、事務局長の佐藤大介さん。



2012年1月19日  
**ささかまぼこと音楽で元気づけよう** (塩竈市藤倉)

小島蒲鉾店の小島邦雄専務。「復興ステッカーを作りました。復興市にも出店させてもらっています」営業主任の高橋英良さんは、地元「がまロック」の委員長でもあり、「音楽で復興を」と頑張っています。



「がまロック」の委員長も務める高橋さん

2012年1月21日  
**命のリズムをTAPに込めて!** (仙台市青葉区)



国際的タップダンサー熊谷和徳さん率いる My Rhythm

2012年1月22日  
**ココロプレスの読者に送る、岩井俊二監督のメッセージ** (仙台市)

福島第一原発の事故を機に、原発依存社会に「NO!」を叫び、エネルギー問題をさまざまな分野から提起したドキュメント映画「friends after 3.11」。この作品を作ったのは、「Love Letter」「スワロウテイル」「リリィ・シュシュのすべて」等の名作で知られる仙台出身の岩井俊二監督です。ココロプレスの読者へ送ってくださった「friends after 3.11」のシンボルマークは監督の手書きによるもの。ハートに込められた監督の想いは、是非ブログの中で。



2011年12月14日  
**大切な記憶にしたい** (塩竈市)

「震災後の辛い時期に夢ミュージカルの仲間と再会したら絆の深さを実感しました。前を向いて、この経験を大事にしながら、忘れるのではなく、大切な記憶にしたいと思います。」メンバーの小林桂子さん。



2011年12月19日  
**安らぎの家 円通院** (松島町松島)



安らぎの家 円通院の副住職 天野晴華さん

名勝松島のお寺、円通院の副住職、天野晴華さん。「今年も10月下旬から紅葉ライトアップを行いました。『希望、灯す』の合言葉で、一度立ち止まって気持ちを休めてほしいという願いを込めました。被災された方々が苦しみや悲しみを乗り越えられるようこれからも傍で見守り続けていきたい」と天野さん。これからも地域の、そして、日本の光でいてください。

2012年1月23日  
**すべての人にアートを** (仙台市)



震災後、老人福祉施設へのレクリエーションを提供し続けるダンスアーティストの千田みかさん。心とからだの専門家であるアーティストは笑顔という人間最良の美質を取り戻すために被災現場で頑張っています。

2012年1月24日  
**応援したい、純粋な思い** (仙台市青葉区)

被災企業を直接支援できる「セキュリテ被災地応援ファンド」を立ち上げた「ファイブブリッジ」。気仙沼が大好きな1人のメンバーの企画が実現。「投資家と企業との関係はここから始まり」と語っていました。



被災した者同士、ここから再起を目指す

2011年12月19日  
**ヒトもココロもアナタも繋ぐ。岩沼の新しい顔。** (岩沼市吹上)

『いわぬま復興支援プロジェクト 結の会』。主に仮設などで暮らす被災者に仕事を紹介しています。「まだ他にも何かできるんじゃないかと日々考えています」と、代表理事の大塚さん。未永い支援で岩沼の復興に尽力してくださいね。



作業仲間と共に、次へのきっかけを掴む

2011年12月22日  
**あるがままに今日を生きる** (多賀城市町前)

「イタリアンカフェ ルイパパ」、オーナーの鈴木美江子さん。被災した店を6月から再オープンした、とてもパワフルな方です。「『あるがまま』という言葉が好きですね」今を大切にしています。



元氣なオーナーの鈴木さん

2012年1月11日  
**自転車で日本一周、つながる感謝の輪** (仙台市宮城野区)

全国からの支援に対して、高齢にもかかわらず自転車で日本一周をして感謝の意を表した大友忠さん。昨年5月、「ありがとう宮城」のゼッケンを胸に、自転車で仙台を出発。「声が届きにくい離島、過疎地まで回りました。300人を超える方々から書きをいただき、とても感激しました。温かい支援は、必ず復興のすべりパワーとなります」感謝を表し、そしてまた励ましをいただく。とてもすてきな輪がそこにあります。



こころの支援を大切にされている大友忠さん

2012年2月2日  
**あかりを消そう** (仙台市青葉区)

あの日の夜、停電した街の空にはまばゆい星空。その時気づいたこと。あかりのおかげで私たちは何か大事なものを失っているのでは？そこから始まった未来への記憶を残すための「311 星空プロジェクト」遠藤瑞知さん



詳しくは [星空プロジェクト](#) | 検索

2012年2月1日  
**世界の子供たちをアートでつなぐココロのプロジェクト** (仙台市)

震災後、海外の子どもたちから、被災地の子どもたちを励ましたいと、せんだいタウン情報「machico」へ送られてきた可愛い絵の数々。「For children By children」は、子どもたちの心をアートでつなぐ心のプロジェクトです。イタリアをはじめ世界各国へと広がるこのプロジェクトは、未来を担う子どもたちが作る復興への架け橋。世界から寄せられた絵の数々は、ポストカードやカレンダーとなって子どもだけでなく大人たちの心にも、可愛い笑顔を届けます。詳しくは [machico](#) | 検索



2012年1月11日  
**「人助けに理由はいらねえ」 スコップ団** (仙台市青葉区)



東日本大震災で被災した友人の死を機に結成され、瓦礫除去活動を展開するスコップ団。津波被害を受けた家に積もった瓦礫や泥を、大人数の温かい仲間と共に、スコップと高圧洗浄機を駆使して一掃！ 厚い人望から圧倒的な人気を博す平了団長の元に来る賛同者は、全国2600名にも及びます。3月10日には、鎮魂の花火を2万発、天国にいる犠牲になられた方々のために打ち上げました。

詳しくは [スコップ団](#) | 検索

全国の心温まるご支援のもと、宮城が復興していく姿を、復興に向けて頑張る人々やそれを支える人々にスポットを当てながらご紹介します。詳しくは宮城県震災復興応援ブログ「ココロプレス」をご覧ください。

**ココロプレス**  
<http://kokoropress.blogspot.com/>